

遠くの山並みや車窓から見える木々にいやされる感覚は多くの人に共通するだろう。見るだけで心地よいなら、山に入って木々の手入れをしながら森林を育てる林業の仕事は苦労もあるだろうが、魅力も多いに違いない。そのような現場を体験できる「週末林業の楽しみ方」と題した講座が福岡市の西隣、糸島市の山林で開かれている。2月のある日に参加者とともに山に入った。

# 森は呼んでいる

## 「AM8:30 集合」

### 興味があれば誰でも参加OK

2月に実施するのは冬が間伐のシーズンだからだ。間伐は良い木を育てるために周辺の木を切る林業の基本作業。夏は根が水分を盛んに吸い上げる時期であるため水が多く通る木の表面に傷が付きやすく間伐に適さない。講座の主催は糸島市林業研究クラブ。兼業を含めた林業従事者のグループだ。30年近くの歴史を持ち、勉強会による技術向上などに取り組んでいる。当日は吉村正春会長らが指導してくれた。

「週末林業の楽しみ方」は、森林を所有していながら林業とは別の仕事を持つ人などが対象。背景には木材の需要低迷や輸入拡大などから事業環境が厳しいため業界全体で後継者不足になっていることがある。そのため手入れが行き届いていない山が糸島市内で増えているという。そこで間伐技術などを伝え、週末だけでも山の手入れに活動してもらいたいという思いから講座の開催に至った。所有者でなくても林業に興味があれば参加可能だ。

当日は2月の週末に実施する3回構成（1回は12日間）の2回目。1回のみ参加することもできる。各回とも単なる技術指導だけではない。タイトル通り、山でしかできない楽しみ方、を盛り込んでいるのが特徴だ。今回はチェーンソーを使って本棚やいすを作る。

当日は8時半、糸島市内に講師を含め20人ほどが集合した。メンバーは父親と一緒に参加の男子中学生や定年間際の男性、マイチェーンソーを持参した女性などさまざま。佐賀県、宮崎県からの参加もある。

山に入る車の台数を少なくするため乗り合いで出発、15分ほどで現場のスギ林に到着した。全員が集まったの自己紹介では、さまざまな参加動機が語られた。実家の山を手入れしようと思っている、会社が所有する山を社員で手入れしたい、木工作家をやっているが素材が育つ現場を知りたいなどだ。その後4、5人のグループに分かれ、いよいよ開講だ。

#### まずはチェーンソー

初参加のグループは吉村会長にチェーンソー操作から教わる。基本構造や燃料、潤滑油について学んだ後、エンジンスタートから実技に入る。

スタートの基本は水平な場所にチェーンソーを置

き、左手と右足で固定、始動用ロープを右手で思い切り引く。動いたチェーンで石などを飛ばさないよう注意。適当な場所がない場合にはチェーンソーを股に挟んでロープを引く方法もある。ただしチェーンソーの重さを生かして下げながらロープを引いてかけようとするのはご法度。「落とし掛け」と呼ばれる危険な行為だ。

習った後は慣れる。交代でエンジンスタートを繰り返す。最初は何度もロープを引いてやっとかかったエンジンもスタートを繰り返すうちに温まり、1回でスタートしやすくなった。あちこちからエンジン音が響き、音だけを聞くとミニバイクのレースさながらだ。



チェーンソーはギックバックに注意

チェーンが縦に回転するように構えた場合、チェーンは上部の手前から先に向かって動く。刃先の上部は「背中」、下部は「腹」と呼ばれ、木材に対して一直線に切るのが基本。立つ場所や作業によっては背中や先端を使うこともある。最も注意しなければならないのが「キックバック」と呼ばれるチェーンソーの跳ね返り現象。先端で切っている最中などにチェーンが引っかかって刃先が体に向かってくることだ。チェーンソーをしっかり握り、切り始めから完全に切り終わるまで気を抜かないことが重要。特に刃先を突き込む際には要注意だ。

#### 「快感」喜びの声

基本動作や注意事項を学んだ後は、あらかじめ倒された丸太を切る。ポイントは切り始めから最後まで刃をまっすぐに保つこと。吉村会長は「素直に切ることが大切。切っている途中で刃を傾けてはダメ」とアドバイスする。初参加グループでは直径20センチほどの丸太が切り刻まれた。参加者からは「快感」「癖になりそう」など喜びの声が上がった。

講座参加2回目のグループは直径30センチほどの丸太を切っている。いかに薄く、断面をきれいに切るかに挑戦する人もいる。しばらくは全員が切って切って切りまくる。さまざまな厚さのバームクーヘンのような木片があちこちに積み上がっていった。

切ることに慣れたころ、初参加グループは立ち木を倒す伐採の実習に入る。安全に倒すために木を見るポイントには根元よりも枝ぶり。倒れ方に影響を及ぼすか



直線の加工を組み合わせてカーブも作れる

らだ。広葉樹の場合は、ねじれながら倒れるケースがあるため特によく見る必要がある。倒れ方に影響する風にも注意。晴れた日でも風が強い日や雷の日は危険なので伐採をするべきではない。

基本的な伐採の方法はこうだ。まず根元の倒す方向に水平と斜めの切れ込みを入れて切り取る。次に反対側から一部を残して水平に切り込む。中央付近で切れ残る部分は倒す方向に対して真っすぐに向いていなければ狙った方向に倒れない。残した部分をちょうつがいのようにして押し倒す。ちなみに林業の現場では安全のため倒す際は笛で周囲に知らせる。笛は林業者の必須品で吉村会長も首から下げている。

#### 丸太を生かした家具

別のグループでは、丸太の形を生かした本棚やいすの製作が始まった。使う道具はチェーンソーのみ。これまでに習った切ったり差し込んだりの技術がフル活用される。棚は両端と底、背の部分を残して切り出して作る。丸太にくぼみを作り園芸用のプランターを作る人もいる。

丸太は適当な高さがあれば立派ないす。さらに脚が加工されたものや二人掛けのベンチも登場した。ベンチは座る部分がくりぬかれており、端はカーブになっている。カーブの加工もチェーンソーの動きの基本である縦、横、斜めの組み合わせ。チェーンソーは使い方次第でのみにもかんにもなるのだ。

切り倒したばかりの丸太で作る物に対して注意点が一つ。乾燥に伴う収縮でヒビが入ることも覚悟しておかなければならないことだ。いすの場合は、あらかじめ切れ目を入れ、それ以外の場所にひびがはいるのをある程度防ぐという方法もある。ヒビやヒビの入る過程に趣を感じることができれば言うことはない。

仕上がった作品は一カ所に集められ、全員が集まったの講評だ。講評するのはアクセサリーから家具まで幅広く製作している木工

房モクコモ（福岡県糸島市）の薦田雄一代表。薦田代表からは「味わいがある形をしている」「ダイナミックな作品」「良い材料を使っている」などいずれに対しても愛情あふれるコメントが続く。評価を受けた誰もが笑顔をみせる。

気付くと時刻が迫る16時。作品を車に積み込んで現場を後にした。帰宅して部屋を見回すと山にいたためか日常生活に木材が少ないと感じた。まずは身の回りの物を一品でも、できれば国産の木材を使ったものが欲しくなった。後日、糸島市産の木材を使った製品を販売している。糸島くらし×ここのき（同）でヒノキの箸ケースを買い求めた。箸以外にもいろいろと使えそうだ。



糸島くらし×ここのきで販売している地元木材のスプーン

## 「PM4:00 終了」

## お菓子を通じて歴史と文化をお伝えします



今日から君もコンペイトウ王国の一員だ!

おかげさまで開業一周年を越えたぞ!

## コンペイトウ王国 福岡ミュージアム

コンペイトウは、かわいくて夢のある不思議なお菓子。コンペイトウの歴史や魚の秘密、つくり方などコンペイトウの魅力を紹介しています。

★	☆コンペイトウ工房	(800円)	★
★	☆カルメラ工房	(600円)	★
★	☆シュガーアート教室	(900円)	★
★	実施時間 / 10時、11時、13時、14時、15時、16時		★

#### コンペイトウ王国福岡ミュージアム

営業時間 午前9時～午後6時(体験受付は午後4時まで)  
住 所 〒815-0031 福岡市南区清水1-16-11  
アクセス 西鉄高宮駅下車徒歩10分  
大池通りに入り、清水四ツ角をききよ通りに直進

お問い合わせ先  
TEL 092-554-3001 FAX 092-554-3007  
E-mail f-museum@konpeitou-kingdom.com

## 杵の川



長崎県工業技術センター  
共同開発商品

大吟醸長崎奉行 720ml  
価格 2,625円(税込)

株式会社 杵の川  
長崎県諫早市土師野尾町17-4